

図書館だより

短い夏休みが終わりましたが、まだまだ暑い日が続いていますね。

外での活動が難しい日は、室内でゆっくりと本を読むのもいいかもしれませんね。

8月号

令和2年8月

宇都宮市立旭中学校図書館

文責：加藤・安達

新着図書紹介

流浪の月



2020年
本屋大賞受賞

風良ゆう/著
東京創元社

更紗は、幼い頃に幼女誘拐事件に合い、周りから『ロリコン少年に傷つけられた可哀そうな被害者』と扱われます。でも、それは『真実』とはかけ離れたものでした。更紗は、傷つけられておらず、むしろ希望と安らぎを感じていました。『被害者』として世間から息苦しい善意の中での生活を送っていたある日『加害者』の青年と偶然に出会います。そして、二人の人生が揺らぎ始めます。

店長がバカすぎて



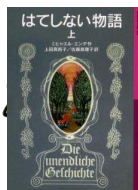
早見和真/著
角川春樹事務所

朝礼でどうでもいい訓示を長々と話し、やっかいなお客様が来ると姿をくらます。そんな空気を読めない店長に、不満が一杯の書店で働く契約社員の谷原京子。自分が面白いと思う小説をお客様に届けたいと思っていますが、現場の事が何もわかっていない社長や売りたい本を入荷してくれない大手出版社、天狗になって全力を出さない作家など、どうしてもない人達に疲弊する京子。そんな京子を察して、店長がバカを演じているのでしょうか...書店や出版社などに興味がある人、職場を垣間見ることができそうです。

教科書掲載本 (3年)

はてしない物語

ミヒャエル・エンデ/著



バスチアンは、容姿にコンプレックスがあり、クラスメイトからいじめられている少年。そして母を亡くして以来、父との間にも確執ができ、孤独な日々を送っています。ある日、いじめっ子に追われ、慌てて古本屋に逃げ込み、そこで偶然『はてしない物語』と言う本を見つけます。バスチアンは店主の目を盗み、本を持ち出し読み始めます。本の舞台は、病に倒れた「幼なごころの君」が支配する国「ファンタジーエン」。この国は、「虚無」の拡大によって崩壊の危機にたたされています。「幼なごころの君」と国を救うために「救世主」を探さなければなりません。ある少年がその使命を承り、旅に出るのですが、努力は虚しく国は崩壊してしまいます。これを読んでいたバスチアンは「救世主」は自分のことだと察し、「ファンタジーエン」の世界へと吸い込まれていきます。

旭地域おすすめ

medium 霊媒探偵 城塚翡翠



相沢沙呼/著
講談社

警察の協力をして難事件を解決してきた推理作家の『香月』。ある日、妹のように可愛がっていた後輩が事件に巻き込まれて命を落としてしまいます。この事件で霊媒師の城塚翡翠に出会います。翡翠は、死者の言葉を届ける事はできますが、証拠能力はありません。『香月』は霊視と論理の力を合わせて事件を解決していきます。一方、四年前から起きていた連続殺人鬼の魔の手が徐々に翡翠に迫ってきます。が、この本のおもしろい所は、最終話 VS エリミネーターです。推理小説ファンのみならず、一読ください。すっきりです！

